

てんじんさま

平成30年9月1日発行 第162号

発行所 久里浜天神社社務所

〒239-0831 横須賀市久里浜5-19-1

TEL046-835-3703 Fax 835-3503

ホームページURL tenjinsha.or.jp

九月

ながつき
長月

本日はよくお参り下さいました

なお厳しい残暑が続いておりますがいかがお過ごしですか。夏の例大祭も無事盛大に執り行うことができました。ご協力誠にありがとうございました。さて、ここ数日久里浜は大変な賑わいを見せています。その理由は横須賀市主催でポケモンゴーというゲームのイベントを8/2 9~9/2まで行っているからです。イベント参加権を持つ方が、くりはま花の国に1日2万人訪れる事になっています。花の国への道中、当社にも訪れて下さる方がおり、お参りされたり御朱印を受けていかれたりします。国内はもとより海外からいらした方も。ある方は、お守りをお受けになったあと、笑顔で「良いお土産ができた」と仰っていて、このイベントによって幸せを感じている方がいることを間近に感じました。今月も皆さまのご安寧をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



9月

1日・15日 月次祭 (つきなみさい)

皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

8日 白露 (はくろ)

白露は「しらつゆ」の意でこの頃秋気も本格的に加わり野草に宿るしらつゆが、秋の趣をひとしお感じさせます。



9日 重陽 (ちょうよう) 五節句の一つで旧暦9月9日の節会。菊の節句、九月節句ともいいます。

17日 敬老の日 多年に渡り社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝います。

20日 彼岸 (入り 20日・中日 23日・明け 26日)

祖先のみたまをまつり、お墓参りをする期間です。

23日 秋分の日

祖先を敬い、亡くなった人をしのびます。

24日 十五夜 月の満ち欠けによって月日を知り、農事を行っていたころからの風習で月にお供えものあげるようになりました。参考こよみ読み解き事典

天神さまの豆知識

—神と人を結ぶ鈴の音—

今回は参拝の時に鳴らす鈴についてです。以下引用文。「大部分の

神社では、拝殿正面の上部に鈴が

つるされている。参拝者は、まず

鈴からたらされた布を振つて鈴を鳴らす。古代人は鈴の音が神靈を招き邪靈を払うことによつて、人間の持つ靈力が高まると考えていた。

縄文時代の遺跡からは、呪術に用いられたとみられる土鈴が出

土している。また古墳時代の国産の銅鏡で、鏡のまわりに鈴を付し

た鈴鏡（れいきょう）と呼ばれるもの

がいくつか見つかっている。この

ような銅鏡は中国には見られない。

いると考えていた古代人は空気を搖らすことによって精霊の世界に自分の意思を伝えることができる

と考えた（以下略）当社のご

祈祷にも鈴祓えの儀がありますが、やはり鈴の音によって皆さまの心

と体をお祓いする意味があります。

そう考えるとお神輿にもついてい

ますし、お守りにも。鈴の音には

お清めの力があるからなのですね。（参考文献『日本人なら知つておきたい神道と神社』著者武光誠 河出書房新社発行のことば）竹光誠監修 平成二十六年六月十五日 河出書房新社発行

『出る月を待つべし
今月の言葉追うことなけれ
散る花を

中根 東里

「東里外集」より

月が出る前に、月の出を待つのは良い。けれども、翌年のこれから咲く花ではなく、散りゆくこの花の満開を望んではいけない。

人にも物にも事象にも物事にも感情にも、適切な「時」というものがある。まだ起ころ前の新たなことに備え待ち望むのはよい。しかしすでに終わつたことを時の流れに逆らつて望んではいけない。割れたものを割れる前にはもどせない。終わったことを始まる前にはもどせない。時の流れに乗る。タイミングをつかむ。時流に乗った生き方は大事である。人は過去にもどれない。

事である。人は過去にもどれない。来事に向かい合おう。参考文献『神道のことば』竹光誠監修 平成二十六年六月十五日 河出書房新社発行